

これまでの審議会での委員の主なご意見

1. 粗大ごみ（令和 4 年度第 5 回審議会）

(1) リデュースなどに向けた市民への啓発・情報発信

項目	ご意見
動画の配信	○市での粗大ごみの処理や再生についての動画の再生回数が少ない。より多くの人に届くような検討が必要ではないか。
収集申込時の情報発信	○粗大ごみ収集の際、「まだ使えるかどうか」などを聞けると良いのでは。申込時に「捨てる理由アンケート」を取るのも情報収集方法として有効
ごみ収集車の利用	○ごみ収集車にもポスターを貼るなども市民へのアナウンスになるのではないか。
その他情報発信・普及啓発	○単身層・若年ファミリー層と高齢者の交流の場づくり ○粗大ごみ・プラの急増の情報などの発信の徹底 ○ごみカレンダー・ごみ分別シールを刷新し、粗大ごみ問題の協力を仰ぐ

(2) 不用品リユースの推進

項目	ご意見
「粗大ごみ」の名称変更	○「粗大ごみ」という言い方ではなく、粗大資源、「リサイクルファニチャー」など言い方を変えていけば排出時の意識も変わるのではないか。 ○粗大ごみの名称を変更することに賛成
利再来留館等での粗大ごみのリユース	○利再来留館の取扱中品目のリストがないのは不便 ○子育て世代は、小まめに家電や家具などを必要とするので、利再来留館やジモティーなどの情報がネットで簡単に入手できると良い。 ○利再来留館の閉鎖中、市が自らジモティーに出品し、現物はクリーンセンターに展示できないか。 ○地域・コミュニティでの再生品販売会等をシステムティックに開催できる仕組みを作り上げる。まず公民館等を利用してモデル地区で試行する。 ○ジモティーとの連携強化、民間のノウハウの活用

項目	ご意見
	<p>○市内のリユースショップに粗大ごみの情報を共有（リサイクルセンターに現物を見に来てもらうなど）し、リユース可能なものを譲り渡してはどうか。</p> <p>○ジモティーとの連携を活用し、市がリサイクル品をジモティーに出品してはどうか。</p>
自転車のリユース推進	<p>○自転車のリユースを早く進めてほしい。</p> <p>○自転車のリユースは自転車販売店の販売を阻害しないよう、販売店をきちんとかませて市民に提供する仕組みを考えるべき。シルバー人材センターなどに委託している自治体もあるが、盗難車を販売してしまった事例もある。</p> <p>○自転車の再利用も関係者の連携・協力を密にして取り組めないか。</p>
民間のリサイクルショップや不用品交換の促進	<p>○ジモティーだけではなく、地場でできる人があれば、合わせて活性化していくことも必要</p> <p>○リサイクルショップも増えており、単身者の引っ越し時のリユース等に市も協力して誘導できないか。</p> <p>○ネットを利用した不用品交換は素晴らしいが、市外から不用品が流入し、廃棄されることも懸念されるので、市民限定のサービスを提供できないか。</p> <p>○「譲りたい」「使いたい」という情報を市がまとめて提供できると良い。</p>
リサイクルショップ情報の提供	<p>○自宅にも、不用品を引き取る旨の営業電話が良く来るが、少し怖くて乗れない。市で安全面のオーソライズができないか。</p>

(3) その他

項目	ご意見
情報収集・データ分析	<p>○粗大ごみの処理状況（品目毎の処理数など）や排出者の情報などを収集、分析してはどうか。</p> <p>○粗大ごみの品目別データや排出者の世帯構成などの情報が取れば、粗大ごみ増加要因を探れるのではないか。</p> <p>○粗大ごみ回収の申込時などに、なぜ不要になったかを聞くようにして情報を取れないか。</p>
安全性の追求	<p>○ライフスタイルそのものに関わるので、再生利用（リサイクル）と安全な廃棄を追求することが重要と感ずる。</p>

2. ペットボトル（令和4年度第6回審議会、令和5年度第1回）

(1) ペットボトルのリデュース

項目	ご意見
リデュースの必要性の啓発	<p>○ペットボトルをゼロにするのは難しいが、日に 3 本も 4 本も消費する人が 1 本減らすように促していくのが当面の課題。例えば 1 日 1 本減らすことを訴えるペットボトルホルダーを市がイベントで配布する等して啓発するのはどうか。</p> <p>○ペットボトルはリサイクルされているので環境に負荷をかけてないと感じて使っている人が多いのではないかと。ペットボトルが環境に負荷をかけていることを、イベントやグッズなどを通じて教化していくのが、まず第一歩だと思う。</p> <p>○自販機のペットボトルも値上がりして買いづらくなっている時でもあり、市としてもペットボトル削減の PR に力を入れてほしい。</p> <p>○調布市がペットボトルの減量・リサイクルに向けてどのように取り組んでいるか、どうしていかなければならないのかをもっと分かりやすくアピールすべき。ペットボトルは問題なくリサイクルされていると感じている市民は多いので、分かりやすく具体例を挙げてこれからの生活・未来へどのような到達点へ向かうかを何度も広報していくことが大事</p> <p>○「なぜ減量するのか」をわかりやすく広報することが必要。加えて、ペットボトルの使用を減らす具体的な方法を提示することが大事。マイカップ・マイボトルの使い方、個人や職場での意識改革など</p>
イベント等での情報発信や効果的な PR	<p>○調布駅には恵まれたスペースがあるので、そこでプラスチック撲滅キャンペーンのようなイベントを大々的に行うのはどうか。エコフェスタのようなイベントでプラスチックに特化することも必要ではないか。</p> <p>○リサイクルキャラクター「リサッチョ」を市民への PR 啓発に有効に使えるか。「ごみを分別しない未来から来た」子ども用ロボットのキャラクターを活かし、定期的にごみアプリに登場させるなど、こども達には分かりやすく、大人に向けては厳しい問を投げかけてみるのはどうか。</p> <p>○子ども・大人への環境教育。駅前等、人の集まる場所でのイベント・啓蒙活動、チラシ配布。 収集車両にペットボトルの正しい出し方を貼る。</p>
児童・生徒への環境教育	<p>○ペットボトルも含めプラスチック類を減らすのは難しいが、海洋ごみになることは防がなければならない。小学校区の地区協議会単位で定期的に（2 か月～半年に 1 回など）プラスチックごみ拾</p>

項目	ご意見
	<p>いの日を設け、環境教育の場とするのはどうか。</p> <p>○子ども達への働きかけから、家族全員が意識していくことが大事である。例えばびんのドレッシングを選ぶ、お茶は紙パックにするなど、具体的な取組例を伝えていくのが良いのでは。</p> <p>○市民啓発のため、ポスター展、俳句に加え“調布のグレタさん募集（仮称）”と題し、現在調布が抱えるごみ問題（PET、生ごみ、分別）に立ち向かう高校生を募り市民、ごみ対策課とともに毎年一つの課題を解決していく。</p>
給水スポット等の設置	<p>○やはりリデュースが大切であり、調布駅前広場などに給水スポットを設置し、環境重視、SDGs を推進する市の姿勢を前面に出した開発が大切である。</p> <p>○多摩地区の市町村には給水スポットを設置する例も増えているので、進めてほしい。</p> <p>○ペットボトルのリデュースに向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給水スポットの情報提供 ・公共施設にはすべて給水器を設置 ・家庭ではできるだけ小型ペットを購入しない など <p>気をつければできることを積極的に情報発信する。</p>
びんの使用促進	<p>○自然原料、リサイクル性の優等生であるびん容器を見直す。重量、破損性のデメリットがあるが見直すには適期である。市内のメーカーホッピービバレッジと協業で調布オリジナルのリターナブル瓶（軽量&強堅）を開発し、流通協力のもと、デポジット制リターナルを導入する。容器解決の先駆けとして市外、世界へのアピールともなる。</p> <p>○ペットボトルの消費量が増えているのは一定の経済的合理性があるため。これだけデザインが多様化しているとびんのリユースは難しく、びんもリサイクルせざるを得ない。びんを使うことが本当にエコなのかを定量的に考えるべき。</p>

(2) 事業者の役割

項目	ご意見
事業者の責任	<p>○PET ボトル製造業界は自らの費用負担でユーザーから回収し、100%の水平リサイクルを実施すべきと考える。そのために調布市は今後とも他市と協働して、市が現在行っている回収費用負担を製造業者に求める活動を継続していただきたい。現在は生産者がその回収費用を含めて全ての費用を負担すべき時代と考える。</p> <p>○PET 大量消費&排出の要因は小容量 PET に慣れてしまったことにあり、ここから問い直すことが必要だと思う。そのために市民、メーカー、流通、調布市との共同活動を提案</p> <p>→市内ではPET 飲料の1ℓ以下の販売は禁止（メーカー、流通）、1ℓ以下の容量はビン、紙、マイボトル（市民）、給水場（調布市）で行う。1ℓ禁止が困難な場合はデポジット制を導入</p> <p>○元々は企業が商品を守るために容器に入れているので、その企業が回収するまでの責任を考えてほしい。</p>
ボトル to ボトル)の推進	<p>○水平リサイクルを確実に実施するため、再商品化事業者の選定は入札ではなく、事業者を指定できるようにしたほうが良い。負担額増は市民に詳細を説明。</p>
店頭回収の推進	<p>○ペットボトルの回収ボックスがなかなか見当たらない。イトーヨーカドーに設置しているのは見るが、市が積極的に店頭回収を増やすよう働きかけてほしい。</p>

(3) ペットボトルの分別収集

項目	ご意見
分別ルール	<p>○概ねキャップやラベルをはがしてきれいに出していただいているが、管理人がいない集合住宅等で分別ができていない状況がある。</p>
ペットボトル収集の有料化	<p>○役所や企業で率先してペットボトルを使わずマイボトルとすることをPRしつつ、究極的にはペットボトル収集の有料化で減らすしかないと考える。</p> <p>○マイカップ・マイボトルの利用促進ではあまり効果が期待できず、有料化くらいしか効果が見込めないのでは。有料化したお金の一部を水平リサイクルに配分するなど誘導するのはどうか。</p> <p>○有料化には賛成だが、市民の理解を得るためには、リサイクルセンターの建て替えで焼却せざるを得なくなることを、危機感を持ってもらうよう市民にPRすべき。</p> <p>また、収集頻度を減らすことも良いと考える。</p>

(4) リサイクルセンター建替時の対応

項目	ご意見
市民への周知・説明	<p>○建替期間中の3年間はペットボトル・プラスチックを焼却せざるを得なくなった経緯について市民にきちんと説明してほしい。</p> <p>○建替期間中のペットボトルは焼却となることを市民に現状説明し、削減に向けての協力と今後の正しい処理の仕方を伝えていくことが大事だと思う。分別が悪い排出元に改善・指導を行える期間が3年あると前向きに考えるのはどうか。</p> <p>○リサイクルセンターの建替え期間に活用する代替処分場に、この機を生かし公募した市民ボランティアを招き体験を通じてPET処分の現状を理解してもらう。</p>
建替え期間中のCO ₂ 排出量増加	<p>○リサイクルセンターの建て替えてペットボトルは来年度より焼却処理となる。また、2050年ゼロカーボンに向け、2030年にはハーフカーボンにしないと間に合わないという話もあり、前倒しで取り組む必要がある。</p> <p>○リサイクルセンターの建て替え時に遠方に運びリサイクルするとしてもエネルギーを消費する。焼却してエネルギーを回収するのとどちらの環境負荷が少ないかも考慮すべき。</p> <p>○建替えによるプラスチックとペットボトルの焼却は、温暖化政策と廃棄物政策にとって深刻な問題である。工事期間中の増加分は約7年間で回収できるとのことだが、むしろ、「脱炭素の取り組みを7年間遅らせる施策」であると認識すべき。</p> <p>プラスチック類の焼却による二酸化炭素排出量の増加は調布市の温暖化対策実行計画にはカウントされないとのことだが、実質的には調布市の事務事業に起因している。また、廃棄物施策としての問題点は、市民のごみ分別の努力も無駄になることにある。施策の実施には市民への丁寧な説明だが、例えば都外に搬出する場合のCO₂排出量の予想や一時的な保管場所の新設の是非など、十分に説明されていない。今回の対策が検証の結果やむを得ないものであったとしても、追加的な対策が必要であり、総量管理や代替措置の検討が重要である。</p>

(5) その他

項目	ご意見
国レベルの取組について	<p>○我が国のペットボトルリサイクル率（現在85%）を90%以上とすべく官民挙げて啓発活動すべき。</p>

項目	ご意見
	<p>また、ペットボトルの削減に向けて炭素税を導入したり、マイボトルを促進するためコンビニ等で中身を補充できるようにすべき。生分解性プラスチックの開発を促進すべき。</p>
<p>ペットボトル増加要因の分析</p>	<p>○ここまでペットボトルの消費量が増加してしまった原因をもっと掘り下げ、これまでとは違う取組を検討すべきである。</p>

3. 3 環境教育・環境学習（令和5年度第2回）

(1) 環境教育・環境学習全般

項目	ご意見
「行動変容」へのアプローチ	○「ごみ問題を知る」から「行動する・社会を変える」につなげられるアプローチに踏み込む必要がある。 児童対象の例としては「夏休み子どもエコチャレンジ」などがある。
取組の有効性の検証	○環境教育や環境学習の場を提供する側の自己満足、一過性のものとならないよう、関係者と連携して取組を検証していくことが必要

(2) 対象に応じた環境教育・環境学習

項目	ご意見
幼稚園・保育園での教育	○小さい子どもほど真面目に取り組み、親も一緒に取り組めるので幼稚園・保育園での環境教育は大事である。
児童・生徒への環境教育	○小学4年生を中心としたごみに関する環境教育では、教育委員会と連携して市から情報を提供し、先生方にうまく活用してもらうようサポートしていくことが大事 ○リサイクルセンターの建て替えにあたっては、教材の選定や展示の仕方などに教育委員会や教師にも関わっていただきたい。 ○施設見学での環境学習の際、こども達が楽しく遊びながら学べる部分があっても良いのでは。 ○ごみ探検隊のコースにごみとしての包装が生まれるメーカーの取材を追加する。 ○生徒会や部活動等でごみ問題に関心のある児童・生徒の活動をサポートする。
高校生への環境教育	○小中学校から若年層との間で隙間なく、高校生にもアプローチしていけたら良いのでは。カリキュラム的にもSDGsを勉強する機会もあるはずで、部活やサークルで取り組んでいる学校もある。例えば「市の抱えるごみ問題の解決策を考える」といった投げかけをし、コンペのような形で報告会を開くなど
若年単身者に向けた取組	○調布市で小学4年生の施設（クリーンプラザふじみ）見学の取組が始まって10年。20歳以降の若年者はその経験がない。何らかのアプローチはできないか。例えば単身アパートに正しい分別を書いたチラシを配布するなど ○2030年のSDGs達成には、今ごみを出している人への教育も

項目	ご意見
	<p>必要で、若年単身層への取組が課題</p> <p>コミュニケーション（情報伝達）が取りにくいので、コンビニで買うドリンクに市のメッセージが付く（その代わりに市が負担してポイントが付く）とか、有料ごみ袋にメッセージを載せるなど工夫をして欲しい。</p>
成人向けの環境学習	<p>○三鷹市の環境学習講座（1年間）が大学教授や専門家の話を聞いて有意義だった。成人向けの講座やコースを設けて修了証を出せば、張り合いのあるものになるのでは。</p> <p>○市民向けのごみ問題に関する学習会を単発ではなくシリーズとして行うことも考えられるのではないかと。公民館等との連携も可能ではないかと。</p> <p>○各種出前講座の対象を“職場”に向け注力する。</p> <p>○地域の高齢者、リタイア層など問題意識・時間はあるが機会がない人たち向けに、公民館の講座を活用するなどしてごみ問題の相談機会を作る。</p>

(3) 環境教育・環境学習の手段・方法

項目	ご意見
減量促進員の活動	<p>○ごみ減量キャンペーンで水切りネットを配っているが、要らないという人も多い。他に工夫はできないか。（村門委員）</p> <p>○水切りネットにミニふるいを追加し、ごみ減量を実感してもらおう。野菜くずを乾燥させるだけで重量減の効果は大きい。</p>
施設見学について	<p>○ふじみ衛生組合の施設見学は平日のみのため、働く人は見学に行きにくい。リサイクルセンターの更新の際には休日にも見学できるようにして欲しい。</p>
キャラクターの活用	<p>○リサッチョを大々的に活用してほしい。例えばグリーンホールに張っている「ゼロカーボンシティ宣言」の横断幕にリサッチョを載せるなど。</p> <p>○調布市ならではのキャラクター、例えば水木しげるのキャラクターをホームページなどで活用できないか。</p> <p>○リサッチョのキャラクターのコンセプト（ごみを分別しない世界から来たロボット）を子どもだけでなく大人にも伝え、リサッチョの絵があれば「ごみ問題のことだ」と誰でも分かるようになってほしい。例えば、分別が悪いごみに貼る警告シールにリサッチョを使うなど</p> <p>○事業者でも、一定のルールのもとで利用申請してリサッチョを使えるようにすれば、さらに普及していく可能性があるのでは。（</p>

項目	ご意見
事業者・企業との連携	<p>○市内の事業者や企業で環境に貢献している例があれば、その活動と連携できないか。例えばホッピービバレッジでオリジナルのリターナブルびんを作るなど</p> <p>○企業としてごみ減量やリサイクルに取り組んでいたり、ペットボトル容器などの製造・利用事業者が廃棄後の責任を果たしたりする事例を取り上げるなどしてほしい。</p> <p>○市の古紙選別の事業所（むさしの紙業）を小学生の環境教育の見学コースとすることを検討してほしい。すぐに全 20 校で行うのは大変だが、少しずつ継続的に取り組めば 5 年後 10 年後に変わってくるのではないか。</p> <p>○アメリカンスクールでの出前講座に事業者として参加したが、子ども達も大変興味を持ったので、事業者参加型の出前講座の継続を検討してほしい。例えばごみ収集車やチッパー車を使ったデモンストレーションなど。</p>
イベントの活用	<p>○環境フェアでのリサイクルの展示を見たが、文字ばかりだととっつきにくいので、ぱっと見て分かるようにアピールしてほしい。</p> <p>○環境フェアで駅前の目立つところに舞台を作って正しい分別などの啓蒙活動をする。</p> <p>○地域での夏祭りに「消防ポンプ車来る」という例があるが、パッカー車を呼んでも良いのでは。</p>
ポスター・エコ川柳募集	<p>○ポスターやエコ川柳募集を拡大し実際に取り組んだ経験なども募集すると、審査が大変だが一方通行に終わらないのでは。</p> <p>○例えば環境部長賞としてザ・リサイクルで一言語るスペースを作るなど、入選者の告知・商品を拡大する。</p> <p>○応募対象に「家族」という枠を加え、家庭での議論の機会を提供する。</p>